

刊行事業年譜

『琉球王国評定所文書』刊行事業年譜

【一九八六（昭和六一）年】

五月 警察庁の地下倉庫に、琉球処分時に内務省により接收された「旧琉球藩評定所書類」の一部が発見される。我部政男氏（琉球大学教授）がこれを調査・確認。

六月一〇日 県内二紙（琉球新報・沖縄タイムス）に、同史料発見の経過が報道される。

九月三日 比嘉昇市長・吉長盛勝総務部長・名嘉原安栄教育部長・宮城篤正図書館長、「琉球王国評定所文書」について打合せ（～九日）。

十一月七日 宜保成幸助役・宮城図書館長、東京側から比嘉実氏（法政大学助教授）・梅木哲人氏（長岡工業高等専門学校教授）が加わり、国立公文書館等に於て評定所関係文書を調査（～九日）。

【一九八七（昭和六一）年】

一月二〇日 琉球王国評定所文書刊行事業にあたって嘱託員を置くため、第六回市教育委員会臨時会に「浦添市特別職の職員で非常勤のものものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例」を提案。原案通り可決。

二月一三日 「琉球王国評定所文書」刊行計画発表。県内二紙（琉球新報・沖縄タイムス）に大きく報じられた。

「沖縄学研究に新たなページ」琉球新報、「近世史裏付ける資料」沖縄タイムス。五年で全十二巻を刊行する計画。

二月一七日 沖縄タイムス紙に「意義深い出版事業／琉球王国評定所文書」と題する論説（多和田真助記者執筆）が掲載される。

三月 九日 琉球王国評定所文書編集嘱託員欄を新規に制定するため、第六十回市議会定例会において議案第一八号「浦添市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例」を提案。原案通り可決。

同日付、琉球新報に、高良倉吉氏（沖縄県史料編集室専門員）の論文「『評定所文書』の軌跡」が掲載される（一一日）。本論文は『旧琉球藩評定所書類目録』（一九八九年、浦添市教育委員会）に転載。

三月一九日 国立公文書館へ評定所文書の「出版掲載等について」申請。

三月二五日 国立公文書館より許可を受ける。

四月 一日 「琉球王国評定所文書」刊行事業がスタート。

五月 一日 琉球王国評定所文書編集委員会を設置するため、第三回市教育委員会定例会に議案第七号「浦添市附属機関設置に関する条例の一部を改正する条例」を提案。原案通り可決。刊行事業に伴う編集嘱託員として小野まさ子採用。

五月 八日 東京大学法学部法制史資料室へ「琉球評定所記録」の出版掲載許可申請。

五月一二日 比嘉市長・宮城図書館長・我部政男氏が、東京大学および国立公文書館へ赴き、刊行許可ならびに協

力要請（一三日）。

五月一六日 「刊行事業が本格化」「所有保管者の承認得る」琉球新報（夕刊）。

五月二二日 東京大学法学部法制史資料室より、刊行許可の通知書受領。

五月二三日 「東大から正式に刊行許可通知」「編集作業本格化、委員会設置へ」琉球新報（夕刊）。

五月二〇日 「浦添市が刊行へ」沖縄タイムス。

六月 浦添市立図書館二階研究室（現在の検収室）で「琉球王国評定所文書」講読勉強会が始まる（隔週金曜夜六時から九時）。

六月 九日 朝日新聞（夕刊）に、我部政男氏の評定所文書刊行事業に関する論文が掲載される。「評定所文書」をめぐる特異な経緯と警察庁での発見の様子が述べられている。のち、「旧琉球藩評定所書類目録」（一九八九年、浦添市教育委員会）に転載。

六月二四日 浦添市立図書館協議会にて「琉球王国評定所文書」刊行計画を報告。

七月 三日 第七回教育委員会定例会に議案第一九号「琉球王国評定所文書編集委員会規則」ならびに議案第二〇号「琉球王国評定所文書編集委員会の委託について」を提案。原案通り可決。

七月 四日 崎浜秀明・山本弘文・安岡昭男・比嘉実・梅木哲人・島尻勝太郎・糸数兼治・田里修・高良倉吉・我部政男・池宮正治・西里喜行の各氏に琉球王国評定所文書編集委員会委員を委嘱。

七月二二日 第一回編集委員会を開催。互選の結果、委員長に島尻勝太郎氏、副委員長に我部政男・比嘉実両氏を選出。

七月二二日 県内両紙に第一回編集委員会の模様が詳細に報じられた。

八月 四日 第二回編集委員会開催。編集作業の推移・筆耕原稿の提出状況・句読点・体裁・担当者等の検討など
沖繩側委員を中心として方針を決定。

八月 一八日 第三回編集委員会開催。句読点の問題・目録発行の件・各委員への原稿依頼を決定。第一巻担当者は
島尻勝太郎委員長、及び池宮正治・糸数兼治・西里喜行・高良倉吉の各委員。

九月 一日 資料本文への句読点添付を担当委員へ依頼。

十月 一日 担当委員へ解題執筆依頼。

一〇月三〇日 第一巻指名競争入札。入札不調。

十一月二日 最低入札業者の南西印刷と随意契約を締結。

【一九八八（昭和六三）年】

一月 二九日 第四回編集委員会開催。原文照合準備に伴うチェック作業・原文照合担当委員を決定（高良倉吉委員）。

二月 一六日 第五回編集委員会開催。原文照合準備に伴うチェック作業、及びリーフレット作成の件。

二月 二二日 原文照合のため、東京大学法学部法制史資料室を訪問（高良倉吉委員・小野まさ子囑託員）。

三月 一七日 第六回編集委員会開催。史料集の販売の件について。

三月 二五日 「琉球王国評定所文書」第一巻を刊行。

四月 一日 第二巻・第三巻の刊行計画。

高良倉吉氏（沖繩県立博物館主査）を図書館長として任用。

- 前津政廣を図書館主査として配置、評定所編集事務を担当。
- 五月 九日 ひるぎ社より浦添市教育委員会に「琉球王国評定所文書」全巻の複製・販売を希望する「要請書」が提出される。
- 五月一九日 市販普及のため、ひるぎ社に五百部複製・販売の許可を与える。
- 五月二五日 館長よりの「刊行計画の見直し及び改訂案について」(伺い)を市長決裁。全十八巻十年計画体制となる。
- 六月 一日 「旧琉球藩評定所書類目録」刊行につき、東京大学史料編纂所より許可を得る。
- 六月 九日 第一回編集委員会を開催。事務局より刊行計画改訂を報告。
- 六月一〇日 第一巻発刊の記者会見(於・浦添市役所市長室)。出席者は比嘉市長・保久村昌伸教育長・高良図書館長・島尻編集委員長。
- 六月一七日 ひるぎ社より、市販普及用として新たに三百部の複製本増刷の申請。
- 六月二〇日 ひるぎ社に三百部の増刷を許可。市販用が合計八百部となる。翌二二日付沖縄タイムス、「五日間で四百部販売」。
- 七月二二日 第二巻指名競争入札、サン印刷が落札。
- 九月一〇日 「旧琉球藩評定所書類目録」入札、ちとせ印刷が落札。
- 九月二〇日 第三巻指名競争入札、南西印刷が落札。
- 一〇月 一日 編集嘱託員として豊見山和行採用。
- 一一月 六日 浦添市立図書館主催の文化講演会「評定所文書の魅力」(講師・豊見山和行)を開催。

- 二月一七日 第二回編集委員会を開催。編集作業の見直し。本文に文書番号を付けることを決定。
- 二月一七日 評定所文書を読む会・第一回（講師・高良倉吉）
- 二月一九日 評定所文書を読む会・第二回（講師・小野まさ子）
- 二月二二日 評定所文書を読む会・第三回（講師・豊見山和行）
- 二月二四日 評定所文書を読む会・第四回（講師・豊見山和行）
- 二月二九日 評定所文書を読む会・第五回（講師・小野まさ子）
- 二月一日 評定所文書を読む会・第六回（講師・高良倉吉）
- 二月五日 島尻勝太郎編集委員長死去。
- 二月六日 評定所文書を読む会・第七回（講師・豊見山和行）
- 二月八日 評定所文書を読む会・第八回（講師・豊見山和行）
- 二月一〇日 評定所文書を読む会・第九回（講師・小野まさ子）
- 二月一三日 評定所文書を読む会・第十回（講師・高良倉吉）
- 二月二八日 編集事務局の資料を充実させるため、沖縄県立図書館へ史料複製許可を申請。

【一九八九（平成元年）年】

- 一月六日 編集事務局の資料を充実させるため、琉球大学図書館・東京大学史料編纂所・国立公文書館へ史料複製許可を申請。
- 一月二四日 原文照合のため、豊見山・小野兩名、東京大学法学部法制史資料室を訪問（一二月七日）。

一月三十一日 第二巻を刊行。

二月 五日 金城功氏（沖繩県立図書館副参事）に編集委員会委員を委嘱。

二月 六日 第三回編集委員会を開催。島尻勝太郎委員長の死去を受け、新委員長に金城功氏を選出。

三月 六日 原文照合のため、豊見山・小野兩名、東京大学法学部法制史資料室を訪問（一〇日）。

三月 二五日 編集事務局資料として、「伊波普猷文庫」他の複写史料整備。

『旧琉球藩評定所書類目録』を発行。発行部数は千部。

三月二〇日 第二巻を刊行。

三月 二三日 第四回編集委員会を開催。難読箇所決定。

四月 一日 新たに、田名真之・島尻克美・恩河尚・仲地哲夫・里井洋一各氏に編集委員会委員を委嘱。

五月 二三日 第一回編集委員会を開催（委員長・副委員長を選定、平成元年度の計画）。

七月 二二日 第四巻・第五巻指名競争入札。第四巻は南西印刷が落札、第五巻は入札不調。

七月 一八日 最低入札業者のサン印刷と第五巻の随意契約を締結。

七月 二二日 編集参考史料として、沖繩県立図書館・琉球大学附属図書館・石垣市立八重山博物館へ沖繩関係郷土

資料（マイクロフィルム）借用・複製許可願い。

九月 二六日 第二回編集委員会。議題は解題原稿の依頼および報告と平成元年度の進捗状況。会議終了後、図書館視聴覚室で市長等関係者を招待して出版祝賀会を開催。

一月 九日 評定所文書を読む会・第一回（講師・島尻克美）

一月 二六日 評定所文書を読む会・第二回（講師・島尻克美）

一月二八日 東京大学法学部法制史資料室へ原文照合（一月二一日、小野まさ子・豊見山和行）。

一月三〇日 評定所文書を読む会・第三回（講師・島尻克美）

二月 七日 評定所文書を読む会・第四回（講師・島尻克美）

二月二四日 評定所文書を読む会・第五回（講師・島尻克美）

二月二一日 評定所文書を読む会・第六回（講師・島尻克美）

【一九九〇（平成二）年】

一月二三日 評定所文書を読む会・第七回（講師・里井洋一）

一月二〇日 評定所文書を読む会・第八回（講師・里井洋一）

一月二七日 評定所文書を読む会・第九回（講師・里井洋一）

二月 三日 評定所文書を読む会・第十回（講師・里井洋一）

二月 九日 第三回編集委員会（第四巻・第五巻の進捗状況、難読箇所点検・確認）

二月一〇日 評定所文書を読む会・第十一回（講師・里井洋一）

二月一七日 評定所文書を読む会・第十二回（講師・里井洋一）

三月二〇日 第四巻・第五巻を同時刊行。

四月 一日 浦添市立図書館二階に沖縄学研究室が設置されるのにもない、編集作業の現場が旧研究室（検収

室）から沖縄学研究室内に移動。以後、刊行事業が終了するまで、この体制を維持。

前津主査、人事異動により転出。

東恩納ヨシ子を沖縄学研究室担当主査として配置。評定所編集事務を担当。

八月 三日 第一回編集委員会（第六巻・第七巻の編集について、巻頭論考・解題執筆依頼者の検討）

八月 七日 第六巻・第七巻指名競争入札。第六巻はサン印刷が落札、第七巻は入札不調。

八月 一六日 最低入札業者の南西印刷と第七巻の随意契約を締結。

十一月 一九日 第二回編集委員会

十二月 六日 評定所文書を読む会・第一回（講師・小野まさ子）

十二月 一三日 評定所文書を読む会・第二回（講師・小野まさ子）

十二月 二三日 販売状況の悪化を理由に、ひるぎ社より、市販用部数を現行八百部から三百部に変更要請。

【一九九一（平成三）年】

一月 一〇日 ひるぎ社に市販部数の変更を通知。

評定所文書を読む会・第三回（講師・小野まさ子）

一月 一二日 評定所文書を読む会・第四回（講師・小野まさ子）

一月 一七日 評定所文書を読む会・第五回（講師・小野まさ子）

一月 一九日 評定所文書を読む会・第六回（講師・里井洋一）

二月 二日 評定所文書を読む会・第七回（講師・里井洋一）

二月 一六日 評定所文書を読む会・第八回（講師・里井洋一）

二月 二三日 評定所文書を読む会・第九回（講師・里井洋一）

二月二十八日 第三回編集委員会

三月二日 評定所文書を読む会・第十回（講師・里井洋二）

三月二十六日 第六卷・第七巻を同時刊行。

三月三十一日 豊見山和行囑託員、退職。

四月一日 編集囑託員として比嘉聡採用。

豊見山和行氏に編集委員会委員を委嘱。

四月二十六日 第一回編集委員会

七月二日 第二回編集委員会

七月三日 編集委員会（金城功委員長名）より刊行計画の見直しについての要望書を浦添市教育委員会に提出。

当初の計画を変更し、平成十三年度までに毎年一冊ずつ、全十八巻を刊行する計画を提案。

八月二三日 教育長の決裁を経て、刊行計画は前項要望書のとおりに改訂。現行の十年計画が十五年に延長。

一〇月二日 第八巻指名競争入札、サン印刷が落札。

一二月一日 編集参考資料として「多良間往復文書控」（マイクロフィルム）の借用・複製を多良間村教育委員会に依頼。

一二月二七日 第三回編集委員会（第八巻解題原稿執筆者の検討）

【一九九二（平成四）年】

二月二〇日 小野・比嘉両名、東京大学法学部法制史資料室へ原文照合（一四日）。

- 二月二六日 第四回編集委員会（難読文字・第一五二二号文書の検討）
- 三月 三日 第五回編集委員会（第九卷の執筆者確認・難読文字の検討）
- 三月一〇日 第六卷評定所文書を読む会・第一回（講師・豊見山和行）「首里を読む」。
- 三月二一日 第七卷評定所文書を読む会・第一回（講師・里井洋一）「ペリーと那覇の町」。
- 三月二二日 第七卷評定所文書を読む会・第二回（講師・里井洋一）
- 三月一三日 第七卷評定所文書を読む会・第三回（講師・里井洋一）
- 三月二四日 第七卷評定所文書を読む会・第四回（講師・里井洋一）
- 三月二七日 第六卷評定所文書を読む会・第二回（講師・豊見山和行）
- 三月一八日 第六卷評定所文書を読む会・第三回（講師・豊見山和行）
- 三月二〇日 第六卷評定所文書を読む会・第四回（講師・豊見山和行、野村宏）この日は巡検が行われた。
- 三月二四日 第六卷評定所文書を読む会・第五回（講師・豊見山和行）
- 三月二五日 第八卷を刊行。
- 三月三一日 第六回編集委員会（第九卷の刊行計画・難読文字・編集嘱託員の人事について）
編集嘱託員比嘉聡、退職。
- 五月二六日 第一回編集委員会（巻頭論考執筆者・難読文字の解説）
- 六月 一日 編集嘱託員として下地美恵子採用。
- 九月二九日 第二回編集委員会（編集嘱託員の人事について・他）
- 一〇月二二日 第九卷指名競争入札、サン印刷が落札。

二月 八日 編集嘱託員下地美恵子、退職。

二月二四日 比嘉市長、急逝。

【一九九三（平成五）年】

一月二八日 第三回編集委員会（第九巻の進捗状況について）

二月 一日 編集嘱託員として大城邦夫採用（三月三一日）。

三月 七日 評定所文書を読む会・第一回（講師・仲地哲夫）「近世琉球の那覇の町をとりまく諸産業と海運」。

三月 九日 第四回編集委員会（難読不明文字の検討・編集嘱託員の紹介・評定所文書を読む会について）

三月一四日 評定所文書を読む会・第二回（講師・照屋善彦）「ベッテルハイムの目でみた近世琉球」。

三月二一日 評定所文書を読む会・第三回。第三回と第四回は編集嘱託員を中心に活字化された文書を講読。

三月二二日 東京大学法学部法制史資料室へ原文照合（小野まさ子・大城邦夫、三月二六日）。

三月二六日 第九巻を刊行。

三月二八日 評定所文書を読む会・第四回。午後は第五回として那覇市内を史跡巡検。

三月三一日 第五回編集委員会（編集嘱託員の紹介・難読文字の解説および新年度予算について）

四月 一日 東恩納主査、人事異動により転出。

國頭正伸を沖縄学研究室担当主査として配置。評定所編集事務を担当。

編集嘱託員として徳元剛採用。

七月 一日 編集参考資料として「金良家文書」（卜占・易関係資料）のマイクロフィルム複製化を北谷町教育委

員会に依頼。

八月二二日 第一回編集委員会（第十巻の入札について）

一〇月二二日 編集参考資料として「宮城真治資料」（マイクロフィルム）の貸出・複製を名護市教育委員会に依頼。

十一月二〇日 第二回編集委員会（第十巻の難読文字について）

十二月一〇日 編集参考資料として「八重山博物館所蔵史料」のマイクロフィルム借用・複製依頼。

十二月二三日 東京大学法学部法制史資料室へ原文照合（一五日、小野まさ子・徳元剛）。

【一九九四（平成六）年】

二月 三日 第三回編集委員会（第十巻の進捗状況と難読文字）

二月二四日 評定所文書を読む会・第一回（講師・小野まさ子）「普天間参詣と浦添」をテーマに五回シリーズ。

三月 一日 第四回編集委員会（第十巻の進捗状況について）同夕、浦添市立図書館視聴覚室で「琉球王国評定所文書全十八巻折り返し記念慰労会」が開かれる。

三月 三日 評定所文書を読む会・第二回（講師・小野まさ子）

三月一〇日 評定所文書を読む会・第三回（講師・小野まさ子）

三月一二日 評定所文書を読む会・第四回（講師・小野まさ子・長間安彦）史跡めぐり。

三月一七日 評定所文書を読む会・第五回（講師・小野まさ子）

三月一八日 第十巻を刊行。

三月三〇日 第五回編集委員会

三月三十一日 高良倉吉氏、図書館長を辞任。

四月一日 西平実を図書館長として配置。

國頭主査、人事異動により転出。

又吉栄喜を沖繩学研究室担当主査として配置。評定所編集事務を担当。

四月二四日 小野まさ子編集嘱託員、退職。

五月三十一日 第一回編集委員会（第十一巻の進捗状況について）

六月三〇日 金城功氏、編集委員を辞任。

七月一日 編集嘱託員として金城功採用。

金城功氏の退任にともなう欠員補充のため、高良倉吉氏（琉球大学助教授）へ編集委員を委嘱。

七月二二日 第十一巻指名競争入札、サン印刷が落札。

九月一四日 第二回編集委員会（委員長・副委員長の選出、第十一巻の進捗状況について）委員長に西里喜行氏、

副委員長に高良倉吉・比嘉実両氏を選出。

十一月二五日 編集参考資料として、京都大学文学部博物館「琉球資料」（マイクロフィルム）の複製許可について

依頼。

【一九九五（平成七）年】

一月二六日 第二回編集委員会（第十一巻の進捗状況および難読文字について）

二月 六日 東京大学法学部法制史資料室ならび国立公文書館へ原文照合（一〇日、金城功・徳元剛）。

三月 二日 評定所文書を読む会・第一回（講師・徳元剛）

三月 九日 評定所文書を読む会・第二回（講師・高良倉吉）

三月 一六日 評定所文書を読む会・第三回（講師・仲地哲夫）

三月 二三日 評定所文書を読む会・第四回（講師・田名真之）

三月 二八日 第十一巻を刊行。

三月 二八日 第四回編集委員会（進捗状況・難読文字）

三月 二九日 第五回編集委員会（進捗状況・難読文字）

三月 三〇日 評定所文書を読む会・第五回（講師・小野まさ子）

五月 二六日 第一回編集委員会（委員長・副委員長選出、第十二巻の進捗状況）西里委員長、高良・比嘉両副委員

長を再選。

六月 二七日 第十二巻指名競争入札。入札不調。最低入札業者二社から見積書を徴収、文進印刷と随意契約を締結。

九月 八日 第二回編集委員会（編集計画の変更について、第十三巻の編集について、第十二巻の進捗状況）

一〇月 六日 編集参考資料として「ハワイ沖縄資料」および「八重山戦前新聞」のマイクロフィルム借用・複写を

沖縄県立図書館史料編集室に依頼。

【一九九六（平成八）年】

二月二六日 第三回編集委員会（第十二巻の進捗状況について）

二月二二日 東京大学法学部法制史資料室へ原文照合（一三日、徳元剛）。

三月二日 評定所文書を読む会・第一回（講師・里井洋一）

三月九日 評定所文書を読む会・第二回（講師・田名真之）

三月二六日 評定所文書を読む会・第三回（講師・西里喜行）

三月二三日 評定所文書を読む会・第四回（講師・高良倉吉）

三月二五日 第十二巻を刊行。

三月二八日 第四回編集委員会

四月一日 西平館長、人事異動により転出。

与座文字を図書館長として配置。

七月五日 第十三巻指名競争入札、サン印刷が落札。

七月一八日 編集参考史料として「ハワイ沖縄資料」及び「沖縄県立博物館所蔵古文書」のマイクロフィルム借

用・複写について沖縄県立図書館史料編集室へ依頼。

七月二六日 第一回編集委員会（第十三巻の進捗状況について）

八月五日 国立公文書館へ原文照合（一三日、徳元剛）。

一〇月一八日 第二回編集委員会（第十三巻の進捗状況・難読文字）

一一月五日 東京大学法学部法制史資料室及び国立公文書館へ原文照合（一八日、徳元剛）。

【一九九七（平成九）年】

二月 八日 評定所文書を読む会・第一回（講師・西里喜行）

二月 一日 国立公文書館へ原文照合（一四日、徳元剛）。

二月 二五日 評定所文書を読む会・第二回（講師・金城功）

二月 一九日 第三回編集委員会（第十三巻の進捗状況・第十四巻の編集について）

二月 二二日 評定所文書を読む会・第三回（講師・金城功）

三月 一日 評定所文書を読む会・第四回（講師・徳元剛）

三月 八日 評定所文書を読む会・第五回（講師・徳元剛）

三月 一八日 第四回編集委員会（第十四巻の編集について）

三月 二五日 第十三巻を刊行。

四月 一日 又吉主査、人事異動により転出。

前津政廣を沖縄学研究室担当主査として配置。以後、刊行事業の終了まで評定所編集事務を担当。

四月 二五日 第一回編集委員会（委員長・副委員長選出、第十四巻の編集について）正副委員長を再選。

五月 二九日 編集参考資料として「県外発行雑誌にみる沖縄関係記事」マイクロフィルム借用・複写について、沖

縄県立図書館へ依頼。

六月 三〇日 金城功編集嘱託員、退職。

七月 一日 編集嘱託員として栗野慎一郎採用。

七月 二日 第十四巻指名競争入札、光文堂印刷が落札。

七月二十九日 第二回編集委員会（第十四巻の進捗状況）

八月 四日 国立公文書館へ原文照合（一七日、徳元剛）。

八月 六日 浦添市役所教育長室に於て第十三巻発刊の記者会見が行われる。出席者は福山朝秀教育長・宮里良一
教育部長・西里編集委員長。

九月二日 沖繩タイムス（夕刊）に深澤秋人氏の書評（第十三巻）が掲載される。

九月二八日 琉球新報に生田澄江氏の書評（第十三巻）が掲載される。

一〇月 一日 第三回編集委員会（第十四巻の進捗状況・難読文字の解説）

一〇月 六日 東京大学法学部法制史資料室・東京大学史料編纂所へ原文照合（一〇日、徳元剛・栗野慎一郎）。

十一月三日 琉球新報に、西里喜行氏の論文「評定所文書の世界」が掲載される（一四日）。

十一月五日 評定所文書を読む会・第一回（講師・田名真之）

十一月二日 評定所文書を読む会・第二回（講師・田里修）

十一月九日 評定所文書を読む会・第三回（講師・高良倉吉）

当日の講座を参観したNTT職員渡久地誠氏からNTTのホームページで評定所文書を紹介することが提案される。以後、同社ホームページに評定所文書を読む会の案内と西里喜行氏の論文「評定所文書の世界」が掲載される。

十一月二六日 評定所文書を読む会・第四回（講師・仲地哲夫）

十二月 三日 評定所文書を読む会・第五回（講師・豊見山和行）

【一九九八（平成十）年】

一月二八日 第四回編集委員会（第十四巻の進捗状況）

三月一七日 国立公文書館へ原文照合（一〇日、徳元剛・栗野慎一郎）。

三月二五日 第十四巻を刊行。

三月二〇日 第五回編集委員会（第十五巻・第十六巻の発刊計画、編集事業の見直し）。向こう二年で四巻を刊行する計画を決定。

四月 一日 刊行事業の計画見直しについて決裁。

五月一九日 山梨学院大学教授我部政男氏と沖縄県教育庁文化課長補佐宮城保氏が東京大学史料編纂所で新発見の評定所関係史料を確認（二〇日付、琉球新報・沖縄タイムス）。

六月 一日 東京大学史料編纂所で新しく発見された評定所関係史料四点の閲覧のため出張（二日、徳元剛）。

六月 四日 第一回編集委員会（新発見の史料について、巻頭論考・解題執筆について、第十五巻・第十六巻の進捗状況）

六月二五日 里井洋一氏が編集委員会委員を辞任。

六月二四日 評定所文書を読む会・第一回（講師・田名真之）

七月 一日 評定所文書を読む会・第二回（講師・島尻克美）

七月 二日 琉球新報に、田名真之氏の論文「評定所文書の世界」が掲載される（三日）。

七月 三日 沖縄タイムス（夕刊）に上江洲安亨氏の書評（第十四巻）が掲載される。

七月 五日 評定所文書を読む会・関連史料巡検（講師・島尻克美）。

七月 八日 評定所文書を読む会・第三回（講師・恩河尚）

七月 九日 小野まさ子氏を編集委員会委員に委嘱依頼。

七月 一五日 評定所文書を読む会・第四回（講師・仲地哲夫）

七月 一九日 琉球新報に、深澤秋人氏の書評（第十四巻）が掲載される。

七月 三〇日 第二回編集委員会（解題執筆について、第十五巻・第十六巻の進捗状況）

一〇月 二七日 国立公文書館へ原文照合（一三〇日、栗野慎一郎）。

一二月 八日 編集参考資料として沖縄県立図書館へ「比嘉春潮文庫」のマイクロフィルム借用・複製について協力依頼。

一二月 一七日 第三回編集委員会（第十五・十六巻の進捗状況、第十四巻販売用について）

【一九九九（平成十一）年】

一月 二五日 東京大学法学部法制史資料室・国立公文書館へ原文照合（一三〇日、徳元剛）。

一月 二六日 東京大学法学部法制史資料室・国立公文書館へ原文照合（一二九日、栗野慎一郎）。

二月 一九日 第四回編集委員会（第十五・十六巻の進捗状況）

四月 一日 与座館長、人事異動により転出。

又吉盛清を図書館長として配置。

五月 一三日 第一回編集委員会（委員長・副委員長の選出、第十五巻・第十六巻の進捗状況）委員長に西里喜行氏、副委員長に金城功・高良倉吉両氏を選出。

六月二日 国立公文書館・東京大学法学部法制史資料室へ原文照合（二五日、栗野慎一郎）。

七月二日 第二回編集委員会（第十五巻・第十六巻の進捗状況、難読文字の解説）

七月三日 評定所文書を読む会・第一回（講師・島尻克美）

八月七日 評定所文書を読む会・第二回（講師・田里修）

八月二〇日 第十五巻・第十六巻指名競争入札、グローバル企画が落札。

九月四日 評定所文書を読む会・第三回（講師・金城功）

九月二九日 第三回編集委員会（第十五巻・第十六巻の進捗状況、難読文字の解説）

一〇月二日 評定所文書を読む会・第四回（講師・小野まさ子）

十一月六日 評定所文書を読む会・第五回（講師・深澤秋人）

【二〇〇〇（平成十二）年】

二月三日 国立公文書館へ原文照合（四日、徳元剛）。

二月六日 第十六巻巻頭論考に関連して県立博物館所蔵資料の借用・掲載の許可願い。

二月二八日 国立公文書館・東京大学法学部法制史資料室・史料編纂所へ原文照合（三月三日、栗野慎一郎）。

三月六日 県立博物館所蔵資料の借用・掲載許可。

三月一〇日 東京大学法学部法制史資料室口石久美子氏、史料調査のため沖縄学研究室を訪問。評定所文書編集作業を見学。

三月二六日 編集参考資料として県立図書館へ「比嘉春潮文庫」マイクロフィルム借用・複製許可願い。

三月二五日 第十五卷・第十六卷を同時に刊行。

三月二五日 第四回編集委員会（次年度編集作業について）

四月 一日 又吉館長、人事異動により転出。

石川勉を図書館長として配置。

六月二五日 第一回編集委員会（第十七卷・十八卷の進捗状況、漢文史料の編集について）

七月 五日 評定所文書を読む会・第一回（講師・里井洋一）

七月二二日 評定所文書を読む会・第二回（講師・小野まさ子）

七月一九日 評定所文書を読む会・第三回（講師・島尻克美）

七月二六日 評定所文書を読む会・第四回（講師・恩河尚）

八月二二日 東京大学法学部法制史資料室・史料編纂所へ新発見史料の原文照合（二二五日、栗野慎一郎）。

九月一九日 第十七卷・第十八卷指名競争入札、光文堂印刷が落札。

九月二七日 第二回編集委員会（第十七卷・第十八卷の進捗状況、難読文字の解説）

一〇月二八日 評定所文書を読む会・第五回（講師・深澤秋人）

十一月 八日 新発見史料の公開（閲覧・複写）について東京大学史料編纂所へ依頼。

十一月二五日 新発見史料の公開（閲覧・複写）について東京大学史料編纂所より承認の回答。

十一月二七日 第二回編集委員会（第十七卷・第十八卷の進捗状況、巻頭論考及び解題の監修）

十一月二七日 国立公文書館へ原文照合（二二九日、徳元剛）。

【二〇〇一（平成十三）年】

一月一九日 第十八巻巻頭論考へ『幸喜区の歩み（幸喜誌）』中の折込地図の転載を依頼。

二月 五日 『幸喜区の歩み（幸喜誌）』中の折込地図の転載許可。

二月一九日 東京大学法学部法制史資料室へ原文照合（二月二〇日、栗野慎一郎）。

二月二八日 編集参考資料（影印本）として「東恩納寛惇文庫」（史料綱文他）の撮影・マイクロフィルム化及び複製許可について沖縄県立図書館へ協力依頼。

三月 六日 東恩納文庫について県立図書館より許可。

三月 六日 編集委員会委員の任期満了にともない、各委員へ引き続き委員の委嘱について依頼。

三月二二日 東京大学史料編纂所へ原文照合（二月三日、徳元剛）。

三月二五日 第十八巻を刊行。

三月二七日 第十七巻を刊行。

五月 九日 第一回編集委員会を開催。正副委員長を再選。補遺篇執筆担当の検討及び企画内容について吟味。名称は「補遺別巻」に決定。

五月二五日 補遺別巻指名競争入札。入札不調。

六月一五日 最低入札業者のサン印刷と随意契約を締結。

七月二四日 正副委員長名で、刊行事業後の課題について教育長へ要望書を提出。

十一月二九日 第二回編集委員会を開催。補遺別巻の進捗状況が報告され、三月二三日に開催が予定されている刊行事業完結シンポジウム（仮称）の内容が話し合われた。

註…役職名等は当時。

